



設計担当者

山下大輔

東京建築士会、山下大輔建築設計事務所一級建築士事務所

戸建住宅(専用) | 愛知県愛西市

波板の家(愛西の住宅)

構造 | 鉄骨造、
ブレース構造

階数 | 地上3階

敷地面積 | 488.23㎡

建築面積 | 81.95㎡

延べ面積 | 185.1㎡

竣工 | 平成29年7月28日



1

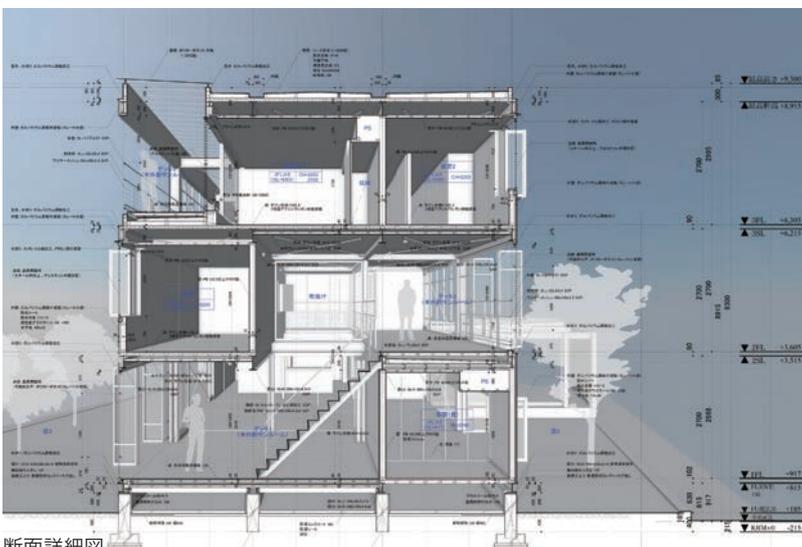


2

1 北東側夕景

2 2階廊下より正面にデッキ1、左にデッキ2、右に居室2のボックスを見る

写真…©TakeshiYAMAGISHI



断面詳細図

選評

敷地一帯は庄内川と木曾川に挟まれた稲作地で、過去に伊勢湾台風の影響を受けている。戦後に都市化を迎えたが、ハザードマップでも浸水が予想される地域である。建物はその中の微高地上の旧集落にあった。

その時、この重量鉄骨を用いたややオーバースペックかつ純粹幾何学的な表現が正当性を持つてくるように思う。つまりこの住宅は、この土地が被るであろうさまざまな風景に対して屹立することを意図してつくられたのだ。1階の建具を吹き放った時に見える風景の中の黒い柱には、この建物が現代的な民家たれという強い思いが感じられた。

平断面での工夫もある。おそらく増沢洵による3間(5.4m)グリッドで構成された最小限住宅(1952)の平面を踏襲し、そこにさらにその半分の1.5間(2.7m)を平面、断面ともに追加し、約4.5間(8.1m)の立方体としたのだ。その結果、最小限住宅は、建物周囲からの環境的影響をそのバッファーで緩和し、住まい手による生活空間の操作を可能にしている。

市街化調整地域に建てられた意志的な住宅の姿という意味で、この住宅は充分プロトタイプたり得ている。さらなる検討をしていただくためにも奨励賞がふさわしいと判断した。
(中谷礼仁)